



スライム

シヨタ

アハハハ

スライム
シヨタ



んあゝ

ビク

グキョ

ん

ん

スライム

シヨタ

あー

あー

シューシュー

シュー

シューシュー
シューシュー

シューシュー
シューシュー



鳥人シヨタ



鳥人シヨタ



鳥人シヨタ



鳥人シヨタ



ウエアウルフ
シヨタ



ウエマウルフ
シヨタ



ウエマウルフ
シヨタ



ウエアマルフ
シヨタ





尻尾

ウエアカキヤット
シヨタ



ウエアクャット
シヨタ

ウエーブキャット
シヨタ





ウエアクキヤット
シヨタ

ヴァンパイア
シヨタ

うっ...

ストゥッ



ヴァンパイア
シヨタ



ヴァンパイア
ジョータ

グッ

ハッ

ムムム

うわー、うわー、うわー



鬼シヨタ

クッ



鬼シヨタ

うぁっ

グキョ

スッ

スッ

サス
サス



鬼シヨタ



鬼シヨタ



アルラウネ
シヨタ



んんん

アルラウネ
シヨタ



あー

ズンズン

アルラウネ
シヨタ



アルラウネ
シヨタ



ドラゴンジョータ



ドラゴンビョウタ



ドラゴンビョウタ



ドラゴンビッド



エルフシヨタ



エルフシヨタ



エルフジヨタ



エルフジヨタ



ズビュビュタ



ズン
ズン
ズン
タ



おっ
おっ

おっ
おっ

ズン
ズン

ズン
ズン

ズン
ズン

ズン
ズン

ズン
ズン

触手シヨタ



触手シヨタ



触手シヨタ



はっはっはっ

はっ

じゅる

じゅる

おん

んんん

シュウ
シュウ



シュウ
シヨタ



シヨタ
ムーヴ



サキユバスシヨタ



サキユバスシヨタ



サキユバスシヨタ





妖精シヨタ

妖精シヨタ



うあぁあぁあ

ザン

ゴム

バクッ

ムッ

妖精シヨタ



妖精シヨタ



魔王シヨタ



魔王シヨタ



魔王シヨタ



魔王シヨタ



モンスターを捕獲して調教する、モンスターハンター。彼らの中には、シヨタモンスターを特に選んで捕獲する者達がいる。

スライム

シヨタ

えっ…

「に、人間…！？ な、何するんですか…？」

彼らは、シヨタモンスターを顧客の希望通りに調教して売ったり、労働力にしたり、あるいは自分の楽しみのために使用している。

「ひあっ♥ なっ、何で…っ!? そ、そこ…っ!?!」

スライム

シヨタ

「やだっ!
やめてくださいっ!
ぬ、抜いて…っ」

ズキョ

ハンターの中には、シヨタモンを性欲処理に使用する者も多く、法に触れるため人間のシヨタ相手にはできない過激なプレイが許されることが大きな理由になっている。

「あゝあゝ〜っ♡ 中に出しちゃダメえっ♡
濁っちゃう♡ 僕と混ぜっちゃうからあっ♡」

スライム

シヨタ

シヨタモンは、人権が認められていないため、どのように扱っても罰せられることはない。ハンターたちにとって、恰好の性欲処理奴隷になるのである。

鳥人族のショタモンは、色白で美形として知られており、高値で取引されることが多い。

鳥人ショタ

この鳥人ショタは、ハンターから売られ、新たなご主人様の元で労働をさせられているようだ。

しかし、鳥人族は気位が高く、反抗的な性格であるとも言われている。

「くそっ、何で俺が荷物運びなんて…っ！」

しかし、反抗的だからと言って、甘い顔をしてはいけない。
プライドを挫いてこそその躰けである。

鳥人シヨタ



『ちゃんと働かないなら、身体でご奉仕させてやろうか』

「嫌だっ！ 俺に触るなっ！ ひいっ♥」

「んひいいいっ♡ やめてっ♡ もう突かないでっ♡
い、イッてますっ♡ イッてるからあっ♡」

鳥人シヨタ



『もうメスイキしてんのか、エロいケツま〇こしやがって。真面目に働く気になるまで、何度でも中出ししてやるからよ！』

「ゆっ…ゆるしてええっ♡」

シヨタモンは、新たな主人の元に売られても、平穏な生活が得られるわけではないようだ。

ウェアウルフ
シヨタ

シヨタモンの役割は、荷運びなどの実務的な仕事から、愛玩ペット、使用人など、多岐にわたるが、このウェアウルフシヨタの場合、闘技場で闘犬として戦わせられている。もちろん、命を取るほどの戦いではオーナーが損をしてしまうので途中でストップが入るのだが、このウェアウルフシヨタは連敗続きで、ご主人様を怒らせてしまったようだ。



『そりゃあ、負けてお仕置きされたくないからさ』
「ひっ♡ やめっ♡」

ウエマウルフ
シヨタ



「くそっ♡ あっ♡ あっ♡ つっ突くなよおっ♡」
『気持ちよさそうだな。ケツま〇こだけでイキそうじゃないか』
「だっ黙れっ♡ くああっ♡」

「んおおおっ♥ もう♥ やめっ♥ で、出るっ♥ イッてるうっ♥」

『やめるわけないだろ？
お仕置きなんだからな。
これから、
お前が負けるたびに、
気絶するまで
犯してやる。
それが嫌なら、
俺のために勝てるよな？』

「わっ、わかったっ♥ ちゃんとやるからっ♥ も、もう止めて…っ♥」

『はは。気絶するまでって言ってんだろ？ がんばれよ』
メスイキ地獄を味わわされ、プライドをへし折られると、ウェアウルフと
言えども従順になる。そして、刺激になれた頃には、今度はご褒美にメスイキ
させてもらえるように、必死に戦うようになるのだとか。

ウェアウルフ
シヨタ

シヨタ

ウェアキャットは、ウェアウルフと比べて力が弱く、一般人でも腕力で屈服させやすい。成獣になっても、一回り体つきが小さく、そのため愛玩ペットとして飼われることが多い。

ウェアキャット
シヨタ



『子猫ちゃん。今日もたっぷりご主人様にご奉仕できるよな？』

「ひうっ♥」

『あ〜、柔らかくて最高だわ。お前にも、たっぷり楽しませてやるからな』



ズンズン

ウエアクャット
シヨタ

「ううっ…、は、はい……」

（くそっ、何で俺がこんな目に……っ！ でも、逆らったらまた飯抜きにされるし……っ！）

『はは、奥届いてるなこれ。締め付けすぎえ!』

ウエアクャット
シヨタ



「あっ♥やんあっ♥ あっ♥やんあっ♥ あっ♥ あっ♥ あっ♥」

(嫌なのにっ♥ 嫌なのに気持ちいいっ♥ くそっ♥ なんだよこれっ♥
お、おかしくなるっ♥ こんな毎日されたらっ♥ 俺っ♥ 俺っ♥)

「おほおおお…っ♥」

『あ～っ、中にいっぱい出てる。ケツま〇こヒクヒクしてるな。

お前も楽しんでるんだろ？』



ウエアクャット
シヨタ

「あっ♥ あああ…っ♥」

(これヤバイ…っ♥ き…きもちいい…っ♥ 戻れなくなる…っ♥

こんなの覚えたら…っ♥、元の生活に戻れねえよお…っ♥)

シヨタモンが仮に逃げ出せたとしても、人間に飼われる以前の野生生活にそのまま戻れるわけではない場合が多い。シヨタモンの試練は続くのだった。

シヨタモンの中には、滅多に捕まらない希少価値の高い者たちもいる。
中でも、ヴァンパイアなどは、特に高値で取引される。ヴァンパイアの弱点は研究され尽くされているため、人間側も、脅しの手段には事欠かないようだ。

ヴァンパイア
シヨタ



『いつもみたいに ご奉仕しろ。
でないと、聖水を飲ませて腹の中から焼き殺すぞ、いいな？』

ヴァンパイア
シヨタ

『そうだ、ちゃんとしゃぶれよ？ 怠けてると、ケツの穴でご奉仕してもらうことになるからな』

（くそ…この私がっ！ こんな…こんな下衆にっ！）

『ははは、いいね、そのみじめな顔。せっかく高い金払って買ったんだから、楽しませてもらわないとな』



『おら、もっと奥まで啜えろよ！』

「んんん♥」

『喉でち○ぽを扱くんだよ、真面目にやれよ、おら!』

ヴァンパイア
シヨタ

(気持ち悪いっ! うううっ! クソツ、こんな奴!
父様がいれば、絶対殺してくれるのに…っ!)

『はあ、そろそろ出そうだな。中に出すから、全部飲み込めよ?』
「んんんっ!!」



「んんん〜っ♥」

グ〜

『あ〜、ヴァンパイアの口の中気持ちいいわ。
牙が微妙にこすれるのがたまらないぜ。
いいか、全部飲み込めよ。
血の代わりに、精液がお前の餌だからな』

(くそ…っ！ 　いつか絶対殺してやる…っ！！)

ヴァンパイア
シヨタ

ブクブク
ブクブク
ブクブク

んんん
んんん
んんん

ガッ

ヴァンパイアシヨタは、人間と比べて
長寿なので、何十年もの間、
幼い姿のままで主人に飼殺される。
屈辱的な期間もその分長引くのである。

鬼族のシヨタモンスターは、怪力で知られている。
粗暴な性格から、主に荷運びなどの肉体労働に回される
事が多いが、それで済むかはご主人様の嗜好次第である。

鬼
シ
ヨ
タ

「くそ！
何で俺が人間なんかの
ために働かねえと
いけねえんだよ！」

クッ

『おい、作業が遅れてる
じゃないか』



鬼シヨタ

『早く運び終えないと、
また夜の仕事を追加することになるぞ?』

「じゃ、邪魔すんなよ!
お前の命令で働いてるんだろっ!」

『気にしないで続けるよ。
でも、この調子じゃ、
いつまでかかるかなあ』

「ふ、ふざけやがって…っ!」

うぁっ

ズキッ

ズッ

ズッ

サスッ
サスッ



鬼シヨタ

『どうした、まだ半分も終わってないぞ?』

「んっ♥ くうう♥
も…触んなってえ…っ♥」

『もし夕方までに終わらなかつたら、
夜は他の従業員の所に仕事に
行ってもらうかなあ。
お前は鬼にしちゃ
かわいい顔してるし、
たっぷり可愛がって
もらえるぜ?』

「やめっ♥
手を放せよお…っ♥
ほ、ほんとに終わらな…っ♥」



鬼シヨタ

「あ"あ"あ"~~っ♡」

『お、メスイキしてるじゃねえか。
真面目に働けての。
精液で荷物汚しやがってよ』

「やっ♡ だめっ♡
放し♡ 今はあっ♡
ち、ち○ぽだめっ♡
くそっ♡ くそお♡
お、覚えてるよおっ♡」

鬼族であつても、シヨタではまだ人間には腕力で勝てない! 幼いうちから身分の差を叩きこみ、成年を迎えるまでに、人間に服従するよう躡けておくのが肝心なのだ。

モンスターというと、人間と敵対する凶悪なものばかり想像しがちだが、中には、人間に対してあまり敵対心を持たない種族もいる。

アルラウネなどの、植物系のモンスターなどは、比較的人間に対して友好的である。

アルラウネ
シヨタ

フ
フ
ッ

といっても、無理やりさらわれてきたことに違いはないのだが。

「あ、あの…お身体洗いますね…」

アルラウネ
シヨタ

温厚な性格の多いアルラウネ
シヨタなどは、見た目の繊細さ
等も相まって、
身の回りの世話をさせる
使用人などにさせられ
やすい。



「ご、ご主人様のおち〇ぽも…僕の中で洗い…ますね…♥」

「あっ♥ あ..♥ き、きもちいい…ですか…?♥
ま、まだ…続けますか…?
あ…は、はい…♥」

アルラウネ
シヨタ



(こ、こんなことして、いいのかな…。
人間って、こうやって子供作るんじゃないのかな…。
ぼ、僕も赤ちゃんできたりしないよね……?)

「あっ♥ ひあああっ♥ だめっ♥
これ…きもちいいっ♥
やっ、やだっ♥
中に出さないで…っ♥
あ、赤ちゃんできちゃうっ♥」

アルラウネ
シヨタ



このアルラウネシヨタは、ご主人様から嘘の知識を教えられて、
からかわれているようだ。こういった無知な側面も、
シヨタモンの魅力と言えるのかもしれない。

ドラゴンジョタ

愛玩ペットになるのは、無力なショタモンばかりとは限らない。ドラゴンなどの、人の手に負えないような強力な存在でも、幼獣の間は愛玩ペットとして飼われる場合がある。



『ドラゴンのケツま〇こ、最高らしいじゃねえか。高い金払って買ったんだから、たっぷり元を取らせてもらうぜ』

「うあああっ♥ 放せっ! 抜けよっ! 変態野郎!!」

『悪態突きながら、熱いケツマンギュウギュウに
締め付けやがってよ。本当は犯してほしかったんだろ?』

ドラゴンジョタ

ズパッ

ズッ

うあああ

「やめろっ! 抜けっ! ぶっ殺すぞっ!! 人間!!」

『うわ、キツくて最高だな、ドラゴンケツま〇こ！
前立腺ここか？ おら、メスイキしろ！ おら！ おら！』

ドラゴンビョウタ

「おっ♡ おっ♡ やめっ♡ そこやめろっ♡
くそっ♡ おっ♡ おふ♡ おっ♡」



『しっかり感じてんじゃねえが、この変態ドラゴンが。
ケツ犯されてイけ！ 中出ししてやるよ！』

「んおおおっ♥」

ドラゴンショタ

『あ～、たっぷり中に出してやったぜ。
お前もケツマシヒクつかせてイッてるだろ』

トポ
トポ
トポ

「くそっ♥ ゆ、許さねえからなっ♥
絶対殺すっ♥」

ん
お
お
お
お
お
お
お
お
お

『あと10年犯し続けられて、同じ事言っでられるかな？w』

「この…クソ野郎っ♥」

ドラゴンショタの受難は、まだまだ尽きないようである。

エルフシヨタ

捕獲数、価格等で、最も使用人として一般的なシヨタモンスターは、やはりエルフシヨタである。

人形のような可愛らしさに、程よいプライドの高さ、そして、一度服従させると従順になる性質などから、最も需要が高い。

最近では、エロ可愛いコスチュームなどを着せて身の回りの世話をさせるのが、ご主人たちの間でブームとなっている。

しかし、ちゃんと服従させるには、やはり最初の躰けが肝心である。

『脱走しようとするとは、お仕置きが必要だな』



エルフシヨタ

「ふ…ふざけんなっ！
俺は人間なんかに従わないぞ！」

『これでもか？』

「いっ！ ぐ…！ ガキ扱いするなっ！
俺は赤ん坊じゃないんだぞっ！」

『なかなか威勢がいいな。
お前みたいな方には、この方が効きそうだな』



「あっ♥ くっ♥ ど、どこ触ってんだよっ!
変態野郎っ! はっ、放せえっ!!!」

『おいおい、早漏すぎるだろ。
もう我慢汁がにじんでるじゃないか。
それとも、尻を叩かれて興奮したのか?』

「ちがっっ♥ はっ♥ ううっ♥
も、もうやめるおっ♥」

エルフシヨタ

『他の使用人の前で
無様に射精してみるよ。
二度と生意気な口なんて
きけなくなるだろ? なあ』

「いやだっ! ふざけんっっ!!!」

エルフシヨタ

「おっ♥ おっ♥ やめっ♥
で..出る♥ い、イッてる..っ♥
触..るな..っ♥ 止め..はあっ♥」

『あ～あ、射精したな。恥ずかしい奴だ。
だが、お仕置きに、このまま何回も
イカせてやろう』

「やめっ♥ い、今っ♥ 今はっ♥
放しっ♥ も..だめえっ♥」

『ご主人様に従う気になったら、
いつでもやめてやるさ』

こうして、
痛みと屈辱を与えながら
プライドをへし折るていき、
最後には、
絶対に逆らったりなどしない
従順な使用人に躰けられるのだった。



ゾンビショタは、少々特殊なショタモンだ。
“死んでいる”ので、動きは遅く、使用用途も
やや限られてしまう。

ゾンビショタ



しかし、その特殊な性質を活かして、他のショタモン
にはできない仕事を任されることもある。
例えば、竜の餌やりなどだ。
他のショタモンでは、竜と同じ檻に入れられた時点で
餌と間違われて襲われることがあるが、
竜はゾンビを食べないからだ。

ゾンビシヨタ

「ふあああつ♥ は、腹が…熱いっ♥
な、中に出されてる…っ♥ 嘘だ…っ、こんな…っ♥
も、もう檻から出してっ! も、もういいだろっ!？」

『ダメだ。竜の交尾は
3日はかかる。
ちゃんと性欲処理しろ』



ズン

ズン
ズン
ズン

ズン
ズン
ズン

「そ、そんなの無理だっ♥ あっ♥ も、もうっ♥
イタ…っ♥ イタうっ♥」
この後、ゾンビシヨタは3日間ぶっ通しで竜に犯され
続けたのだとか。

特に強くもないが、個体数が少ないせいで希少価値が付くシヨタモンもいる。

触手シヨタ



この触手シヨタなどは、認知度が低く、レアモンスターとして扱われている。臆病で、なかなか人前に姿を現さないことも、珍しさに拍車をかけている。

『よかったな。さっそく、金持ちから予約がかかったぜ』

『初物でよこせって言うから、犯すわけにはいかねえが、味見ぐらいならいいだろ』

触手シヨタ

ひゃあー

触手系モンスターの体表の粘液は美味らしい、
というのは、まことしやかに囁かれている噂だ。

「やっ、やめてっ♥ な…舐めちゃダメ…っ♥」

『おやおや、触手を舐められて勃起してるのか？』
『全身が性感帯って言うのはほんとなんだな』

触手シヨタ

はっはっはっ

はっはっはっ

じゅる、じゅる、

んんんん

んんんん

『しかも、粘液甘くて美味しいな。
触手の先端から溢れだしてくるぜ』

「も、もうやめて…っ♥ やめてください…っ♥」

「ふあああっ♥ 出ちゃう…っ♥ やああっ♥」

『触手から射精してね?』
『粘液美味いわw』~

触手シヨタ

『これから、ご主人様にたっぷり可愛がってもらえよ』
『やだ…っ♥ も、もう帰らせてえっ♥』

触手シヨタは、この後無事にご主人様の元に
引き取られて行った。

ゴーレムというと、元々は人工的に作られたモンスターであるが、近年では野生化し、自然に繁殖している。

ゴーレム

シヨタ

んっ

その特徴は、何より強靱な肉体で、幼いうちから人間とは比較にならない頑丈さを発揮する。

『こいつ、暴れてハンター仲間を怪我させておいて、
まったく反省してねえな』

ゴースト

シヨタ

ゴ

ゴ

『おら、お仕置きだ！ サンドバッグにしてやる！』

「フン、効かねえよ。
どうせなら、ハンマーでも持って来い」

『だとコラ！』
しかし、そんな強靱なゴーストにも、当然弱点はある。

『ち○ぽ勃起させて、何粋がってんだクソガキ!』

ゴージャス

シヨタ

あぁあ

アノ
ニ
ア
ニ

「あぁっ!? いっ! や、やめろ!! 卑怯だぞ!!!」

『仲間怪我させといて、卑怯もクソもねえよ! おら!』

「いっ!? ぎっ!! ひいっ!!!」

「んおおおっ♥ やめてっ♥ やめてくれえっ♥」

『おい、こいつち○ぽシバかれて射精してんぞw』

『ド変態じゃねえか、このクツゴーレムがよ!』

ゴ
ー
レ
ム
シ
ョ
タ

「いぐっ♥ ひいっ♥ 痛っ♥ いっ、イクうっ♥」

唯一攻撃が通る急所を責められると、自分の意思に関係なく、ゴーレムも体が反応してしまうらしい。やはり、囚われたショタモンには、服従以外の道は残されていないようだ。

サキュバス、というと、雌しかいないように思うが、サキュバスにも雄が存在する。

この地域では、女性を狙う雄の淫魔をインキュバスと呼ぶのに対し、男性の精液を狙う淫魔は、性別にかかわらず総じてサキュバスと呼ぶのだ。

この手のサキュバスショタは、羨けるまでもなく、自ら人間の元にやってきて、飼育されることを望む場合がある。

とはいっても、それは餌を手に入れるための戦略的行為であり、本心で人間の支配を望んでいるわけではない。しかし、それでも十分需要と供給が成り立つので、人間としても、そういったサキュバスショタを受け入れ、飼育しているものがある。

サ
キ
ユ
バ
ス
シ
ョ
タ



「ご主人様♥ 今日も、美味しい精液、たくさん出してね♥」

サキユバスシヨタ



通常、サキユバスは人間の精液を容赦なく搾り取るが、まだ幼い事と、自分が強く成長するまで長く庇護下に居続けたいのとので、サキユバスシヨタは過剰に生気を吸いすぎるようなことはしない。

「ふふふ♥ ご主人様のおつきい♥ んっ♥ んっ♥
すごいきもちいいっ♥」

サキュバスシヨタ

まだ成人していないサキュバスは、技術を習得中であり、ご主人様の反応を見ながら、楽しませ方を磨いていく。ご主人様からしても、自分のために尽くしてくれるけなげなサキュバスを見て、悪い気はしないのである。最後には人間の生気を吸いつくして殺してしまうため・・・、であるとはいえ。

サキュバスシヨタ

「あはあああっ♡ ご主人様の精液きもちいい♡
も、もう一回っ♡ お願いっ♡
もっと犯してっ♡
中に出してえ♡」

あはあ
あはあ
あはあ

そしてご主人様は、いつしか自分が
サキュバスなじにはまともな性生活を
送れないことに気付くのである。

さらに、遠くない内に、
成長したサキュバスのどん欲さにより、
なす術もなく死ぬまで精液を
搾り取られて腹上死する未来が待ち受けているのだった。



シヨタモンは、人間サイズのものばかりではない。

妖精シヨタ



妖精などは、最も小さいシヨタモンの一つで、素早い動きと飛行能力から、滅多に捕まることはないが、捕まると高値で売買される。

『人形みたいでかわいいなあ♥』

「くそ、放せ！ 下賤な人間め！」

「うあああっ!!?」

『おお、ほんとに入ったぞ! 妖精って、ほんとにオナホ
みたいなになるんだ♥』

妖精シヨタ

うあああっ

ザッ

ズム

ズク

「苦し…っ! い、息できな…っ!
ぬっ、抜いてくれっ! 頼むから…っ!!」

「お♡ おっ♡ おお♡ ぐるし…っ♡」

妖精シヨタ



『あはは、キツくて気持ちいなあ♡
死んじゃわないか心配したけど、大丈夫そうだねえ♡
じゃあ、中出ししちやおうかなあ』

「やめっ♡ た…頼むから…っ♡ も…助け…っ♡」

「うゝあああつ♥」

妖精シヨタ



『すごい零れてるなあ、まあしょうがないか。
これから毎日使ってあげるから、
妖精オナホ役がんばってね♥』

「やだっ♥や嫌だっ♥ か、解放してっ♥ 許してくださいっ♥」

腕力では絶対に勝てない妖精は、鳥かごで飼われ、この先一生
愛玩ペットとして飼殺されるのだった。

魔王シヨタ

とあるシヨタモンハンターは、長年かけて、伝説のシヨタモンを捕獲することに成功した。

それはなんと、魔王の子供、次期魔王のシヨタモンである。

とはいえ、腕力では勝てなかったハンターは、言葉巧みにシヨタモンを誘惑し、自分の家へと連れ帰ったのである。

「で、何だよ、おっさん。俺のおふくろがサキュバスだから、この俺にもお前の相手してほしいんだろ？ いくらお前が巨根だからって、魔王の息子が負けるわけねえだろ」



魔王シヨタ

「俺が勝負に勝ったら、ほんとお前の命貰っていいんだよな？
この村も皆殺しにさせて
もらうけど、
それでいいんだよな？」

フム

父から、人間の魂を奪うことをまだ禁止されているらしい魔王シヨタは、ハンターの誘いに乗って、騎乗位でち○ぽを挿入する。

魔王シヨタ

「さ、先にイッた方が勝ちだからな…っ♡ え、俺が負けたら…分かってるよ、お前のペットになるんだろ？ 魔王の息子だぞ、約束は守るって…♡」

（や、ヤバい、こいつのち○ぽマジできもちい…っ♡ でも、負けられねえし、早くイカせないとな…こっちが先にメスイキしそうだな…っ♡）

「あ…ヤバいっ♥ これっ♥ 待っ…おほおおお♥」

「た、タンマっ♥
休憩させてくれ…っ♥
い、今の無しで…っ♥」

しかし、先にメスイキした
魔王シヨタは、契約に縛られて
ペット化すること
になってしまった。

両親に行き先を告げずに
来てしまった魔王シヨタは、
ハンターが解放すると宣言するまで
この小屋に縛られてしまう。
巨根ハンターの勝ちである。

『これから、毎日お前のケツま〇こに種付けしてやるからな♥』

「くそお…っ♥ 俺が人間なんかにい…っ♥」
魔王と言えども、シヨタモンはすべからく人間に飼われる運命なのだった。

魔王シヨタ

